

生徒代表のこトバ

今日、十一月九日、府中第五中学校は、創立五十周年式典を迎えました。五十年という大きな節目を新校舎で、迎えられたことを光栄に思うと共に、私たちが生まれる遙か前から、半世紀にも及ぶ長い間、一万人以上の卒業生を出した伝統を思う時、五十年という歴史の重さをいま改めて感じています。

僕はこの新校舎に初めて入ったとき、木のタイルの床、木の壁や、土の色で囲まれた外壁、芝生の緑がまぶしい屋上庭園を見て、自然に囲まれた、まるで生きているような校舎だと感じました。

また、真新しいきれいな教室、全館冷暖房や、太陽光発電、雨水を利用した節水システムなど、最先端の設備が備わったこの校舎で、私たち在校生が何か新しいことを始められる可能性を感じ、五中生徒会の取り組みをより一層、充実させていこう、と決意を新たにしています。

昭和四十二年十一月。創立五周年記念式典の時から体育館に掲げられている、校訓「自己発見」の額。この「自己発見」という言葉は初代校長である林先生が五中創立時に、校訓としたものです。

林先生は「自己発見」に込めた思いを次のように語っています。

「刻一刻と変わる自分を知るということは、初めて見つける、すなわち発見することになるものではなからうか。人生は発見の連続でありたいし、その瞬間にふさわしい行動をしていきたいものだ。」

ただ単に、目標や、やりたいことを見つけてのではなく、これからの人生の中で年齢や、立場に応じて、その時その時の自分の生き方を一人一人が見つけていくことが、林先生の云われた「自己発見」の意味だと思います。

「自己発見」の精神は、毎年五中で育つ生徒の心に根を張り、将来、様々な色の花を日本中に咲かせることでしょう。

最後に、僕たち生徒会が誇りとしている伝統として、昭和三十八年七月二十日から四十九年以上毎朝続けている、生徒会旗掲揚があります。

最初の生徒会旗には、生徒たちが腕を組んでいる図が表されていたそうです。先日、昔の生徒会旗を見る機会がありましたが、四十年以上にわたる先輩たちの努力を物語るかのようにぼろぼろになっていました。

五中生が登校するときも下校するときも、屋上から生徒会旗が見守っています。その下を何十年もの間、大勢の生徒が通り、そして旅立ち、それぞれの人生を歩んでいます。一万人以上の思い出を見送ったこの大切な旗とその意義、そして自己発見の精神を受け継ぎ、五中の誇りとして、これからも引き継いで行きたいと思います。

平成二十四年十一月九日

生徒代表 第五十一期生徒会長 多ヶ谷優治